別紙第６号様式

国立大学法人香川大学学長候補適任者所信

令和５年　４月２７日

国立大学法人香川大学学長選考・監察会議議長　殿

学長候補適任者　氏名　上田 夏生　（自署）

私は2001年に旧香川医科大学に教授として着任し、2003年の大学統合を経て現在に至るまで22年余りの間、香川大学で教育・研究に従事してまいりました。管理運営では2017年10月から４年間、医学部長を務めるとともに、教育担当の学長特別補佐（2013年10月から４年間）・副理事（2021年10月～現在）として全学的に活動する機会にも恵まれました。少子化、運営費交付金の減少、物価高騰など、大学を取り巻く環境には厳しいものがありますが、学長に選出されましたならばこれまでの経験を生かし、本学の理念である「世界水準の教育研究活動により、創造的で人間性豊かな専門職業人・研究者を養成し、地域社会をリードするとともに共生社会の実現に貢献する」を実現するためにリーダーシップを発揮する所存です。３年に及ぶコロナ禍で本学の活動は大きく制限され、人と人が触れ合う機会が極端に減りました。このことで私は、大学が授業のみならず、さまざまな課外活動や外国留学などを通して、若者の人間形成の場としていかに大きな役割を果たしてきたかを再認識しました。学生達が大学生活を通じて自らの成長を実感し、自信を持って社会に踏み出せるような大学、そして関係者や地域社会から信頼される大学を目指したいと思います。

令和５年度は第４期中期目標期間の２年目に当たることから、その達成に向け、この２、３年は極めて重要な時期です。計画を着実に実行することにより第４期のビジョンとして本学が掲げる「持続可能な地方分散型社会の実現に貢献する人材の育成と研究」を推進します。とりわけ人材の育成に注力し、学生には、グローバル化や情報化が進む現代社会で、主体的に考え、行動できる力を身に付けて頂きたいと願っています。学士課程ではまず、本学の教育の柱に位置付けられている DRI教育（D：デザイン思考、R：リスクマネジメント、I：インフォマティクス）を定着、普及させ、DRIを学ぶことの意義をすべての教員・学生に理解して頂くことを目標とします。次に外国語教育についてです。卒業生・就職先企業アンケートからも学生の外国語運用能力が課題となっていますので、社会が期待する最低ラインを見極め、英語力の底上げに取組みます。グローバル化対応では、ダイバーシティ&インクルージョン（D&I）や持続可能な開発目標（SDGs）への理解と実践も大切であり、学士課程教育での充実を目指します。さらにネクストプログラム（特別教育プログラム）のような所属学部を超えた学習の機会を大切にし、起業家や地域社会のリーダーを志す学生の育成についてもどのような取組みが

可能か検討したいと思います。国内外の多様な学生や地域社会との交流も重視します。一方、コロナ禍で普及したリモート講義やeラーニングについては、対面授業を基本としつつも、他大学との連携プログラムの充実化や自学自習の促進の観点などから、積極的に活用します。

大学院教育の振興は重点課題の一つと考えます。専門分野が高度化するにつれ４年間の学士課程教育だけでは十分でない現状があり、学士課程～修士課程（博士前期課程）の６年一貫教育の構築が望まれます。併せて、社会人のリカレント教育や生涯教育のニーズにも応える必要があり、修士課程の定員増の可能性を探ります。また、博士課程（博士後期課程）は若手研究者の育成のみならず、本学の研究を活性化する上でも重要であり、設置準備中の創発科学研究科 博士後期課程を滞りなく開設するとともに、一人でも多くの学生が博士課程に進学するよう尽力します。専門職大学院（専門職学位課程）についても定員の充足に努めます。

研究活動ですが、希少糖、微細構造デバイス、マテリアル・システム等、本学のブランディングに資するプロジェクトは、蓄積された研究成果を基にさらなる展開を目指します。一方で、個々の教員の知的好奇心や問題意識に根差した研究を尊重し、独創性が高く、国内外でトップクラスにある研究が、卓越した成果を得られるよう支援します。また、文理連携型を含め、学部・研究科の垣根を超えて新たな共同研究が生まれるマッチングの機会を増やします。同規模校と比較して低迷気味の科学研究費補助金の採択率と採択金額の増加に向け、取組みを強化します。産官学連携については、イノベーションデザイン研究所を中心にして、創発科学研究拠点（産学共創リサーチ・ファーム）の予算も活用して推進します。

管理運営についての抱負ですが、法人本部と各部局、センター等との対話を密にし、課題を共有し、最良の解決策を見つけたいと思います。ベテラン、若手を問わず職員の意見に耳を傾けます。D&Iを進め、多様な個性・価値観を認め合うことで大学の活力を高めます。厳しい財務状況の中でも老朽化施設の更新は着実に行う必要があります。国の大型予算の獲得にも積極的に挑戦します。デジタルONE戦略に沿って情報化を進め、分散キャンパスの不便さを可能な限り解消します。これらの施策により、香川大学がすべての職員にとって働きやすく、働きがいのある職場になるよう努めます。